

南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和6年 1月23日 (火)
学校関係者評価委員会作成

第二回 学校関係者評価委員会

実施日：令和6年1月23日 (火) 午後1時00分～2時15分

会 場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

名取 昇 (小笠原区自治会長, 学校評議員)
齊藤 至 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)
西川 寛美 (主任児童委員 学校評議員)
藤巻 秀子 (民生委員 学校評議員)
飯久保一男 (前小笠原小学校校長 学校評議員)
新津 岳 (元市教育委員会教育部長 学校評議員)
佐野 紳二 (校長) 深澤 鉄也 (教頭) 時田 和彦 (主幹教諭)

内 容

- 1 学校から提案の内容
 - ①学校評価の方法について
 - ②評価の全体的な傾向について
 - ③教職員自己評価シートの内容と結果について
 - ④児童アンケートの内容と結果について
 - ⑤保護者アンケートの内容と結果について
 - ⑦まとめ…学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について
- 2 協議された主な内容
 - ①学校評価への全体評価について
 - ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員の自己評価及び児童・保護者アンケートの結果を見ると, 前期から引き続きほとんどの項目でプラスの評価であった。小笠原小学校では学校経営方針に基づき, 教育活動全般にわたって適切な指導が行われ, そのことが子どもたちや保護者に肯定的に評価されていると考えられる。

II 学校関係者評価委員会の中で出された主な意見

※「①, ②, ③…; その他」: 評価項目 「・」: 評議員から出た意見 「→」: 学校の回答

【教育活動全体について】

- ・先生方と保護者が一緒に活動する機会が少ないと感じる。交流する場を増やしてほしい。例えば, 5, 6月に保護者や地域のボランティアに声をかけて草取り作業をしたらいいと思う。現在8月の下旬に「PTA環境整備作業」を行っているが, 夏を過ぎて草が大きくなってからでは遅いのでは

ないか。5, 6月に草取りをして、秋にはPTAの環境整備作業をするなど計画的に実施できるとよい。

- ・自己評価書の結果から、子どもにとって楽しい学校、親に信頼される学校になってきていると思う。コロナ禍が終わったので、なるべく以前の様な教育活動に戻せるとよい。それがよい成果につながると思う。保護者とは、顔を見て話すことが大切だと考える。議論・討議することがよりよい学校、よりよい教育活動を実現するために大切だと思う。
 - ・休み時間の終わりに、子どもたちがしっかりと教室に入れることがすごいと思う。また、教職員が休み時間に子どもたちと遊んでいる姿をよく見かけるが、素晴らしいと思う。先生方は、夜遅くまで仕事をしており、土日にも仕事をしに来ている。
 - ・トイレの和式便器は子どもたちの実態や時代に合っていない。それが洋式化されることは望ましいことだと思う。
- 来年度から2年計画で全ての和式トイレを洋式化されることになった。学校施設・設備の改善については、学校・保護者・地域から引き続き声を上げていくことが大切だと考える。
- ・週3回、安全ボランティアとして通学時の危険個所に立っているが、あいさつが気になる。半数以上の子どもは、自分からあいさつしてきたり、こちらのあいさつにあいさつを返してくれたりしている。しかし、あいさつしない子は決まってあいさつをしない。こちらからは継続的にあいさつをし続けているのに、あいさつしてくれないと寂しいし気になる。
- ご指摘のとおり、あいさつをしない子は決まっている傾向が強い。児童会・学級・学校、そして家庭でも働きかけてもらい改善していきたい。
- ・保護者の要望を見ると、「授業中の支援が必要な生徒にはもう一人クラスに先生を配置または民間の支援者の配置などを検討してほしい。」という要望があるが、実際にそのような現状があるのであれば、そのような学級や子どもには、もう一人先生を配置するなどの対応をしてあげてほしい。
- 授業中の支援が必要な児童がいる学級には、市単講師や学力向上支援スタッフを計画的に配置して対応している。学校でも対応にあたる人の増員を市や県に要望している。
- ・学校と自治会で防災の情報を共有したい。
 - ・地区に子どもクラブがないところが3~4カ所あって寂しい。地域としては、集うことでふれあいを大切にしていきたいと考えている。小学校と自治会が情報を密に交換していきたい。
- 学校からは学校通信を毎月1回地域で回覧していただいた。また、学校ホームページを毎日更新して保護者や地域の方に関覧していただき、おかげさまで本年度閲覧者が14万人を越えた。しかし学校から一方的な発信になってしまっていて申し訳なく思っている。地域での行事や取り組み等を伝えていただければ、学校でも周知していきたい。

【今日の授業について】

- ・校内環境が素晴らしい。特に教室や廊下などに、子どもたちが学習の中で取り組んだ作品や成果物が掲示されており、子どもたちの学びの様子が伝わってくる。また、そのような環境の中で学ぶことが、子どもたちの成長につながっていると思う。
- ・(拡大校内研究会の3日前) こんな忙しい時期にこのような会を開催してくれてありがたく思う。先生たちの取り組みには頭が下がる。拡大校内研究会で全部のクラスで授業公開ができるのはすごいことだと思う。
- ・今日全てのクラスの授業の参観をしてみて、子どもたちの様子がしっとりしていた。小笠原小スタンダードが定着していると感じた。よい研究がなされていると思う。しっとりした授業ができていないと子どもたちが考える授業にならない。教室掲示も、その学年の発達段階や教育活動に合ったものが掲示されている。図書館にも読書活動の取り組みや、子どもの読書への興味関心を高める掲

示がされている。

- ・今日の授業を見て、素晴らしい取り組みが行われていると思った。

【教職員自己評価について】

- ④「あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。」
- ・「ややそう思わない」の割合が5～4%あるのが気になる。危機管理マニュアルの内容理解を進める取り組みを行ってほしい。また、学校の門や玄関・校舎外への出入り口を閉める分担を確認することが重要だと思う。それが不審者の侵入を防ぐことになる。
- 学校では、玄関・校舎外への出入り口を閉める作業を分担して行っているが、しっかりと確認をして落ちの無いように継続して実施できるようにしていきたい。危機管理マニュアルについては、今まで全員に冊子で配付していたものを電子化したことも原因の一つだと考えている。危機管理マニュアルを見るためにパソコンやタブレットを起動するのは煩わしい。ただ避難訓練等については、別紙を配付して共通理解が図れていると思う。また、地震発生時の対応については、各教室にワンペーパーマニュアルを配布して児童への共通理解を図ってきた。今後は、火災や水害、不審者対応などについても、ワンペーパーマニュアルを作成して教職員と児童が自らの命を守り、安全安心に過ごすことのできる学校づくりを行っていきたい。
- ⑥「あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。」 ⑧「あなたは、教材・教具（ICT機器を含む）効果的に活用する授業を行っていますか。」
- ・十分に成果が出ていると思う。成果を教育委員会に報告したり、保護者や地域・関係機関等で発信したりすることで先生方も喜ぶと思う。
 - ・校内研に主体的に関わっている教職員の割合は、7月に28.6%だったものが12月には47.8%と約20%向上している。教師の意識の高まりは校内研の取り組みの素晴らしい成果だと思う。教師の一番の仕事は授業であり、それに関する意識が向上していることは素晴らしいと感じる。
- ⑨「あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。」
- ・自己評価書にあるように継続的に取り組んできているので、今後も取り組みを続けてほしい。
- ⑰「あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。」
- ・評価が低くなっているが、保護者アンケートの結果を見ると、保護者のニーズには十分応えられていることが分かる。だからこの項目についてはマイナスとして出さなくてよいと考える。
- ⑱「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。」
- ・評価が低くなっているが、南アルプス市には特色のある地域人材や文化財、産業、自然などの教育資源が数多くある。例えば貴重な遺跡等も新たに発掘されている。地域の教育資源に関連付けた授業を増やしてほしい。
 - ・コロナ禍が収束したので、再び地域と関りが持てるようになるのではないか。例えば、1年生の焼き芋大会に招待する、給食の試食会を20食限定で募集する等を行う。その代わりに、草取りをするので手伝ってほしい、家庭科の授業でミシンの実習をするので手伝ってほしい、習字の授業を手伝ってほしい等、地域にお願いするとよい。このようにもっと地域の方と交流させたい。地域には素晴らしい人材がいるので地域の力を学校に取り入れられるとよい。
- 地域との関りについては、再来年には市でもコミュニティ・スクールを導入することになるので、みなさんに協力をお願いしたい。

【児童アンケートについて】

⑥「わたしは、無言清掃をしている。」

- ・お互いに清掃をするための話はしてもよいと思う。

→おっしゃる通りで、そのことを各学級でも伝えてもらっているので、評価も改善しつつあると考えている。

⑪「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」

- ・児童アンケートの結果に大きな変化がないことに一喜一憂しない方がいい。自分の意見をもち表現する力は、子どもたちが社会に出るときに重要な力であり、それがしっかりと身につけられるよう継続的に取り組むことが大切だと思う。

⑬「わたしは、本を読んでいる。」

- ・大切なことなので継続的に取り組んでもらいたい。
- ・教職員の自己評価では、⑨「あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むように指導していますか。」の評価が改善しているが、児童の評価は低くなっている。先生自身が子どもと共に読書することができているかが気になる。子どもは「言うようになるのではなく、するようになる。」と言われるように「子どもは大人の行動を見てまねる。」朝読書の時間を大切にして先生も一緒に読書をしてほしい。

【保護者アンケートについて】

②「お子さんは、授業の内容が分かっていますか。」④「お子さんは、家庭学習（宿題や塾・家庭教師との勉強を含む）をしていますか。」

- ・この結果は、保護者が気にかけてくれている証拠だと思う。

⑩「学校には教育活動に適した施設・設備が整っていますか。」

- ・学校だけでなく、保護者からも市に声を届けていくとよい。

【児童アンケートと保護者アンケートの結果の違いについて】

- ・児童アンケート⑰「わたしは、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。」の項目では保有率が44.1%、保護者アンケート⑫「お子さんは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。」の項目では保有率が26.7%という結果だが、17.4%もの開きがある。どうしてこのような結果になるのかが気になる。

→具体的な原因は分からないが、携帯電話やスマホを兄弟等で共有している、保護者が持たせている位置確認のGPSのことを携帯やスマホと勘違いしているなどの原因が考えられる。なぜ差があるのかについては確認していきたい。

- ・児童アンケート⑯「わたしは、朝ごはんを食べて登校している。」の項目では、いつも食べているが80.5%、だいたい食べている12.0%、あまり食べていない6.7%、食べていない0.8%、保護者アンケート③「お子さんは、朝ごはんを食べて登校していますか。」いつも食べている88.1%、9.9%、2.0%、0%という結果になっていて、差がある。子どもと保護者の間の差が気になる。

【その他】

- ・前回の関係者評価委員会で要望していた、資料（自己評価書）の事前配付をしてもらえてよかった。じっくり考えられて、意見をまとめることができた。
- ・子ども食堂を利用する子どもたちの中には、保護者がごはんを作らない、ごはんの代わりにお菓子を食べさせているという子がいるが、そのような保護者がいるか学校では把握しているのか。もしそのような保護者がいるのであれば、子ども食堂の存在を伝えてあげてほしい。

Ⅲ 達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、今年度もある程度安定した学校運営がなされ、教職員と児童・保護者・地域との関係も良好であることがうかがえる。今年度の具体的な取り組みを継続させていく中で、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。今年度コロナ禍が収束し、教育活動の制限も緩和されてきている。しかし、コロナ禍の間に教育制度や教育内容が大きく変わり、来年度からは新しい教科書が導入される。また、山梨県教育振興基本計画（令和元年度～令和5年度）の期間が終わり、新たな教育振興計画が策定されることもあり、学校教育は変革の時期を迎えている。そのような中でも一人一人の子どもたちの能力を最大限に伸ばすための取り組みを実現させていくため、学校と家庭・地域が一体となり小笠原小学校の教育活動を推進していきたい。